

井戸を掘り111年…技能集団「日さく」の挑戦

井戸を掘るさく井工事を手がける日さくは、創業111年を迎えた老舗企業だ。
さく井工事のみならず、特殊土木工事や地質調査、井戸用設備製造まで手がける随一存在として知られる。国内にとどまらず、上下水道が未整備のアフリカなどの海外ではODA（政府開発援助）の給水事業案件も手がける。そんな日さくを支えるのは意欲ある社員の存在。「会社にとって大切な資産である『ヒト』への投資を強化する」と宣言する若林直樹社長と、同社を支える社員の代表6人に、仕事のやりがいや将来展望を聞いた。

自然や人と携わり続けたい



東日本支社 井部さく井二課
(新卒採用・入社2年、4月から3年目)
木下 優子 氏

仕事を全うすることが恩返し

現場内の品質 工程安全 実行予算などの管理を担当しています。注者と作業員の間に立つ現場をコントロールしたり、工事に必要な材料や作業の専門業を手配したりして、工事の流れを滞らさないように準備してまいります。工後は報告書を提出して業務は完了します。最近離島での掘削現場に従事しました。島内の水源を新しくするものので、仕事を全うして品質の良いものを渡すことが、お世話になった多くの方々への恩返しになると感じました。仕事をやり終った場所に戻場所やつながりを感じられることで、仕事を成功させたいと強く思いやりがちなつもりです。今後もボーリングという業界で、自然や人と携わり続けたいと考えています。これから上司や先輩から学んでいきたいです。後輩には仕事を上手に付き合っていくことを見つけて、素敵な人生を送ってほしいと思います。仕事の時間とそれ以外の時間のオンとオフは分けるようにしています。仕事以外の一番の息抜きは、家族や友人と会って話して、たくさん笑うことです。



日本とベトナムの架け橋に



東日本支社営業部積算課
(新卒採用・入社2年、4月から3年目)
青木・ティ・ドゥオック 氏

プロジェクトの具体化は大きな喜び。地質調査の積算を担当しています。建物を橋を建設する場合は、地盤の性質や土質調査が重要になります。昨年当社が着任した高木道路建設の土質調査の積算も手がけました。実際にプロジェクトが決まった時は、とてもうれしかったです。関わった案件が具体化していくことは大きな喜びです。今は入社してきてまだ半年ですが、海外への様々な支援や教育プログラムも充実しています。社員の皆さんがサポートしてもらい、安心して働いています。得たものは日本とベトナムとの架け橋になれるような仕事に携わりたいと思います。

日さくの事業



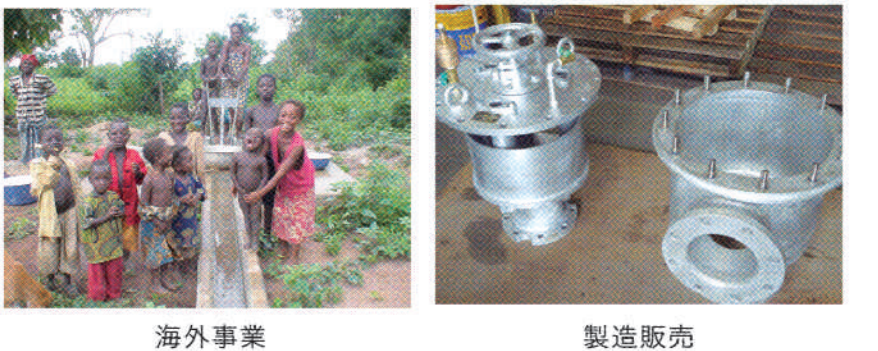
さく井工事



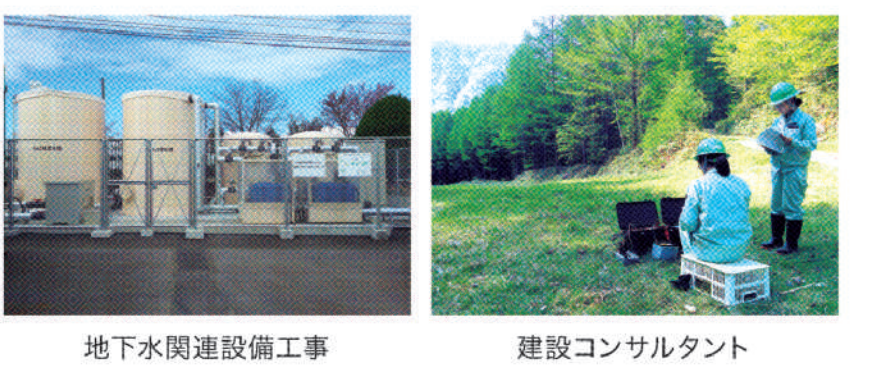
地質調査



特殊土木工事



製造販売



海外事業

建設コンサルタント



地下水関連設備工事

建設コンサルタント



総務部人事課/主任
(新卒採用・入社11年、4月から12年目・主任3年目)
今村 理美 氏

社員を支える縁の下の力持ち



創業明治45年の社歴に感謝。創業明治45年という社歴に感謝を受けました。私にできることは、一つの仕事に専念することです。私には足りない部分の知識と経験がありますが、自分が持っているものを最大限に発揮したいと思っています。また私自身、仕事を通じて何か形になるものを作りたいです。現在は井戸で地下取水するNSTスクリーン製の「管理」検査を行っています。良くも悪くも全て自分次第になるので責任も重大です。その反面やりがいも大きいです。



埼玉工場製造課/主任
(中途採用・入社2年10ヵ月、4月から2年11ヵ月目・主任1年目)
齋藤 広輝 氏

形になるものを残したい

管理業務とオペレーター、二役をこなす技術者に



東日本支社新潟支店土木部/主任
(新卒採用・入社10年、4月から11年目・主任2年目)
渡辺 礼則 氏

学生時代は工業高校で機械加工の分野を学びました。就職活動の中で、特殊土木工事という聞き慣れない言葉に興味を持ち、見学会に参加。現場では地下数十メートルで作業する姿や、重機の音が響いている姿を見て、一般的な土木工事とは違うスケールの大きさ、珍しさに惹かれました。専攻分野とは異なり、入社当初は現場で掘削や土留めなどを行っていました。経験を積み、管理業務とオペレーターの二役をこなす技術者に成長したいです。



被災現場の復旧にやりがい

被災現場の復旧にやりがい。地すべりなど土砂災害に対する地質調査や対策計画立案など主に防災業務に携わっています。災害直後の緊急対応は大変ですが、自分が調査設計を担当した現場で被災した道路や河川などが復旧している様子を見たときにはやりがいを覚えます。被災現場で復旧作業に携わっていると、防災に強い会社で働いているという自覚が湧いてきます。被災現場での経験や知識を活かして、防災業務に貢献したいと考えています。一生懸命仕事に取り組めば、必ず何かしら報として返ってきます。後輩には、課題に直面しても逃げず、チャレンジしてほしいです。先方が見えない社会情勢ですが、これからの日々を一緒に乗り越えていきたいと思います。



被災現場の復旧にやりがい

東日本支社上越支店/課長
(新卒採用・入社13年、4月から14年目・課長2年目)
竹田 知史 氏

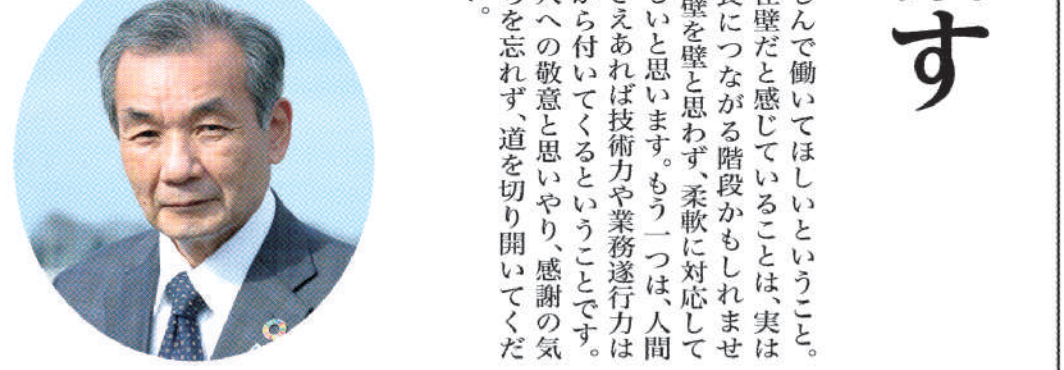
次の120年に向けて飛躍を目指す

三つの観点で働きやすい環境づくりを推進。当社が1912年明治45年に創業し、井戸を掘る「さく井」地質調査、特殊土木を主力事業とします。井戸を通じて海外安全水供給という事業に加え、本社事務所を設置した地質調査や防災対策の分野でも22年度は社員総連帯して23年度はベイスアップも検討しています。建設業も24年度から海外労働者の上限規制が適用される予定で、120周年に向けて飛躍するために、会社にとって最も大切な資産である「ヒト」への投資を強化して、生産性を上げていくこと、健康経営とダイバーシティ経営、働き方改革の三つの観点から働きやすい環境づくりを進めています。

コロナ禍で延期していた海外人材の導入も、現場の状況に合わせて海外人材の活用も進めています。また、定期健康診断も実施しています。海外で活躍している社員も、日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。現在海外に活躍している社員も、日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。現在海外に活躍している社員も、日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。

海外人材はベトナムを中心に中国、インドネシア、インドネシア、インドネシア、インドネシアなどです。日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。現在海外に活躍している社員も、日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。

海外人材はベトナムを中心に中国、インドネシア、インドネシア、インドネシアなどです。日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。現在海外に活躍している社員も、日本に帰国して働くという選択肢も提供しています。



日さく社長
若林 直樹 氏



日さくは、水と大地の総合エンジニアリング企業として、1912（明治45）年の創業以来、「さく井」地質調査、「特殊土木」の主要3事業を中心に我が国、そして世界の人々の営みを支えてきました。次の50年、100年も、日さくはその歩みを止めることなく、進んでいきます。

地下数十メートルで作業、スクール大！特殊土木工事